議会だより

たちばな

第70号

令和元年10月臨時会（第５回）
〃　　12月定例会（第６回）

もくじ

○１２月定例会のあらまし・・・・Ｐ２
○補正予算の主な内容・・・・・・Ｐ３
○一般質問・・・・・・・・・・・Ｐ４～Ｐ１０
○議会報告会・・・・・・・・・・Ｐ１３～Ｐ１４

第10回
宮崎県市町村対抗駅伝競走大会
2020年1月13日開催

2020年 本年もよろしくお願いします。

12月定例議会議案のあらまし

第6回　定例会（令和元年12月11日～12月19日）

同意1件（人事案）、補正予算3件、条例7件、その他4件が提出され、審査が行われました。

令和元年度　一般会計補正予算

12月補正	2,713万9千円
予算総額	62億3,658万6千円

今定例会の内容としては、一般会計補正予算（第５号）が主なもので、その他、一般職の給与に関する条例の一部を改正する条例、高原町定住促進住宅の設置及び運営に関する条例等が審議されました。

■固定資産評価審査委員の選任

内　村　宗　則氏

■選挙管理委員及び補充員の選挙

○選挙管理委員　飯　田　芳　彦氏	○補充員　黒　木　つね子氏
○選挙管理委員　髙　原　清　男氏	○補充員　堀　川　美千代氏
○選挙管理委員　坂　口　俊　夫氏	○補充員　吉　永　智　彦氏
○選挙管理委員　西　田　正　利氏	○補充員　岩　元　　浩氏

補正予算の主な内容　■議案第58号（一般会計補正予算第5号）

○ふるさと振興事業費	高原町和牛ブランド確立対策事業補助金・・・・・・・・・・2，６７０千円
○農業振興費	たかはる農業人「財」確保支援事業農業人材投資事業補助金・2，０００千円
○園芸振興費	みやざき特産野菜価格安定対策事業補助金・・・・・・・・・・６６０千円
○畜産業費	アフリカ豚コレラ等緊急総合対策事業補助金・・・・・・・5，４１２千円
○農地費	工事請負費（暗渠排水整備）・・・・・・・・・・・・・・・1，３４９千円
	多面的機能支払交付金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８９千円
○農道整備費	維持補修費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2，０００千円
○土地改良費	町単独土地改良事業（橋梁点検委託）・・・・・・・・・・2，３５７千円
○林業振興費	鳥獣保護区等周辺被害防止事業補助金・・・・・・・・・・・６４７千円
○商工費	宮崎フリーウェイ工業団地企業立地促進補助金・・・・・・1，６５０千円
○観光費	皇子原公園災害復旧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1，０００千円

令和元年　第5回臨時会議議決結果

議案番号	件名	議決結果	①末永充	②陣圭介	③前原淳一	④中村昇	⑤反田吉已	⑥入佐廣登	⑦温水宜昭	⑧福澤卓志	⑨松元茂春	⑩温谷文雄
議案第46号	特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例及び町長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	●	○	－
議案第47号	令和元年度高原町一般会計補正予算（第４号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－

令和元年　第6回定例会議議決結果

同意第７号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第48号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第49号	特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	●	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第50号	議会の議員の議員報酬・費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	●	●	●	○	○	●	○	○	－
議案第51号	高原町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第52号	高原町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第53号	高原町集会施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第54号	高原町定住促進住宅の設置及び管理に関する条例	可決	○	●	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第55号	物品購入契約について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第56号	指定管理者の指定について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第58号	令和元年度高原町一般会計補正予算（第５号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第59号	令和元年度高原町国民健康保険特別会計補正予算（第１号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第60号	令和元年度高原町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
議案第61号	町道の廃止について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
——	選挙管理委員及び補充員の選挙	当選	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
請願第２号	介護保険利用料原則２割負担化、ケアプラン有料化などの制度見直しの中止　介護従事者の処遇改善など、介護保険制度の改善を求める請願	不採択	●	●	●	○	●	●	●	●	●	－

「○」：賛成、「●」：反対、「除」：除斥、「棄」：棄権、「欠」：欠席

一般質問

町の考えを問う

農業用水路の使用料認めず 浄化槽排水めぐる上告審で最高裁

なかむら のぼる
中村 昇議員

問 土地改良区の管理する農業用水路に、「し尿浄化槽で処理した排水を流す住民に水路の使用料相当額を請求できるか」が争われた訴訟の判決で最高裁は住民側に使用料の支払いを命じた2審判決を破棄し、住民側逆転勝訴の判決を言い渡した。町はこの判決をどのように受けとめるか。

答 多目的使用料の徴収根拠を明確にし、住民の方々との協議が図られるよう協力していく。

○国民健康保険

問 医療費の動向と保険税への影響の見通しは。

答 医療費の増加は今後も続くことが予想され、保険税も上がるものと思われる。

問 健診等での保健指導の対応は。

答 800名の全対象者にできていない。マンパワー不足があるか検証したい。

問 一般会計からの繰り入れで保険税の負担軽減を。

答 被保険者の負担を考慮し、必要があれば法定外繰り入れも考える。

○公共交通

問 三重県玉城町のオンデマンド交通を調査した。利用者は年間約2万7千人に上り運営しやすく、利用しやすい公共交通であった。本町でも導入したらどうか。

答 デマンド交通の導入も含め、さまざまな交通手段の実証実験を行いながら調査・研究を重ねていく。

○町立病院の救急告示病院の継続を

問 町は来年3月までに救急告示病院施設を取り下げるかどうか意思決定するとされている。病院では年間80件以上の救急車を受け入れている。一分一秒を争う救急患者を受け入れる救急指定病院の取り下げはすべきではない。

答 救急医療体制は堅持する。

行財政改革の推進を！

じん　けいすけ
陣　圭介議員

問　事業見直しが不十分で、新規事業の財源が生み出せないのでは。

答　歳出がこれまでになく厳しい。特に継続事業、補助金等の事業効果も含めて重点化、予算の集中化をせざるを得ない状況。

問　予算編成にあたり、外部アドバイザーに、独立した立場で事業評価をお願いするような取組も必要ではないか。

答　今後、考えていかなければならない。

○新地方公会計

問　新地方公会計に関し、各財務書類作成に要する期間や課題は。

答　現手法では、次年度末までかかる。幅広い知識を熟知した職員の育成が課題。また、得られたデータの分析、近隣・類似団体との比較までできていないので、国県等の状況も確認しながら検討していく。

○病院事業

問　医師の定年年齢を他の職員と同様に戻す必要があるのでは。

答　定年年齢引き下げ、条例改正の必要性は認識している。

問　速やかに、指揮系統を次期院長の下におくべきでは。

答　現在の院長代理が、来年4月より院長に就任する。

○運動の意識付け

問　運動の意識付けとして、県と連携し、県が提供しているアプリ等を活用した事業を推進できないか。

答　県が提供しているアプリ等を活用し、インセンティブとしてポイントに応じた得点を付与する形式でのウォーキング等、関係課で協議する。

また、科学的根拠に基づく健康まちづくり政策を産官学連携で推進し、町民に受け入れやすい運動事業の推進に努める。

○まちづくり

問　町長の視点でまちづくりとは。

答　豊かな自然、神話伝説、貴重な郷土芸能等は引き継いでいかなければならない。

また、若者の流出を防ぎ、仕事に就く、家庭を持つ、住み続けて地域で活躍できる環境をつくっていく。

基幹産業である農業、商工業、観光あらゆる産業の活性化を図り、そして雇用創出をすすめていくことを重点的に捉えている。

営農振興に耕種農家の推進を

入佐（いりさ） 廣登（ひろと）議員

○農政

問 農業耕種農家の後継者が育っていない。新規就農者支援策と現在の推移状況は。

答 新規就農者、平成29年度～31年度、14人。内訳、畜産農家8人、園芸農家5人、水稲1人。支援策として高原町人材交付金、高原町新規就農助成事業交付金等で取り組んでいる。

問 耕種農家の現状と推進は。

答 露地野菜農家55戸、施設園芸29戸、計84戸。内後継者数18戸。高原町園芸サポート事業、活かせ「生農地（いのち）の水」支援事業等の取り組みや、来年1月に県とJAで今後の高原町の耕種部門の推進や担い手対策を議論する農政座談会を計画している。

問 道の駅の取り組みは。

答 これまで町内観光産業の交流等の施設が必要であると答えているが、この考えは道の駅に必ずしも限定するものではない。

○住宅行政

問 広原町営住宅建設予定地8戸計画の内、令和元年度2戸建設されるが、今後の計画は。

答 次年度に2戸の設計を進めている。今後入居者の状況と応募状況等を判断材料とし、財源確保をしながら年次的に進めていく。

▲建設中の広原町営住宅

○消防防災

問 各地区にある防災無線が地区によっては聞こえにくい箇所があるが。

答 消防団による広報、メールサービス情報提供、テレビを通じた避難周知など複数の手段を用いて災害伝達に備えていく。

○広原第3部詰所駐車場整備

問 詰所前の道幅や駐車場が狭い。拡張はできないか。

答 隣接地の土地を借りており当面は引き続き詰所の立地条件、周辺の地形を見ながら考えていきたい。

問 詰所横の山を切り開いての拡張は。

答 傾斜がきつく造成が必要であるが、今後立地条件を勘案しながら引き続き検討させていただきたい。

○土木行政

問 上平・高原駅線高速道路橋付近が見通しが悪く危険である。前回答弁で減速用の区画線、誘導標識を用いて再度検討していくとしていたが。

答 財政状況等や優先順位等を踏まえながら再度検討していく。

▲上平・高原駅線高速道路橋

町民の意見・要望

まえはら　じゅんいち
前原　淳一議員

○ふるさと納税

問 温泉施設利用料などへの活用を。

答 納税者の意思反映が第一条件、今後状況を見据え判断していく。

○教育現場の環境整備

問 基本となる分野の環境整備を。

答 学校からの要望を勘案しどのような事業が必要か見極め対応する。

○庁舎建設

問 早めの結論を。

答 新庁舎建設で検討する。

○景観条例

問 条例をもっと簡単に。

答 ホームページ等でわかりやすく周知を図る。

問 草木の生い茂りは景観を著しく阻害し、事故の危険性もある。対策を考える時期に来ているのでは。

答 必要な箇所については住民の協力を得ながら安全の確保に努める。

○ハザードマップ

問 水害のハザードマップがない。

答 本町には洪水浸水想定区域はない。県の指定告示後統一的なハザードマップを作成する予定だ。

○荒廃地対策

問 優良農地周りの荒廃地（川井田医院周辺）の対策を。

答 所有者に管理の指導を行った。

▲指導後の荒廃地

○皇子原公園

問 テニスコートがコンクリートで危険だ。

答 安全な利用について啓発を行う。

問 手すりの破損やぐらつき、路面の穴なども危険だ。

答 今後も事故が起こらないよう万全を期していく。

▲皇子原公園の破損した手すり

○防災無線

問 早口で分かりづらい。

答 今後は発話速度を調整しながら聞き取りやすい放送に努める。

○道路改良工事

問 蒲牟田地区の早期完成を。

答 財政状況を踏まえながら進めていく。

○PTA奉仕活動

問 草刈り機やラインカーが不足しているが。

答 草刈り機は保護者の好意、ラインカーについては保有状況を把握し対応していく。

○町立病院

問 香川県の陶（すえ）病院、佐賀県の太良（たら）病院への行政調査で多くの改善点が見つかったが。

答 「全員が心を一つにして住民の信頼に応えうる病院づくり」「地域包括ケアの中心的役割を果たす」こと等参考事例を積極的に取り入れていく。

問 一度離れた患者を連れ戻すことは並大抵ではない。

答 十分認識している、住民と一体となり信頼のある病院に変えていく。

新時代への街づくりを

温水（ぬくみず） 宜昭（よしあき）議員

○町内公道（国・県・町）の維持管理

問 町内公道の管理や点検状況は。

答 国道・県道は毎年道路調査を行い、県への要望書を提出し、補修工事等も実施しており、町道については定期的にパトロールを行い、区長や町民からの情報を基に補修を実施している。

問 国道・県道の白線（区画線）が消えている箇所が多く見られるが。

答 区画線については、交通量の多い所や通学路を優先して引き直しを実施しているが、止まれ表示や停止線及び横断歩道等の規制については、小林警察署と協議を行いながら引き直しを実施していく。

○地域活性化支援

問 地域行事の活動に対する支援状況は。

答 まつり高原（400万円）、神武の里たかはる秋まつり（250万円）、霧島登山マラソン（55万円）、日本発祥地まつり（220万円）、美しい村づくり推進事業（83万円）。

問 後川内夏まつりや東雲太鼓保存会への支援は。

答 後川内夏まつりへの支援は平成18年度に80万円（舞台資材）、平成28年度50万円（備品購入）。又、東雲太鼓保存会へは、平成27年度に36万5千円（太鼓の修繕）支援を行っている。今後も可能な限り支援していく。

○庁舎リニューアル

問 庁舎リニューアルについて検討開始から現在までの経緯について。

答 ①平成25年耐震補強の診断（試算・新築12億円、耐震補強3億円）
②平成29年8月 町議会に説明後、耐震補強工事設計委託を実施
③平成31年3月 耐震補強工事の実績報告書（耐震工事費6億4400万円）
④令和元年9月 耐震補強工事断念

問 美郷町は、約7億円程度で建設されていたが。

答 庁舎新築の参考にしたい。

問 今後のスケジュールは。

答 令和2年に公共施設検討委員会で検討していく。

▲東雲太鼓

中断されている道路工事再開について

すえなが　みつる
末永　充議員

○町道二葉村移線

問 都市計画街路事業町道二葉村移線と町道後谷上町線につなぐ200m区間について道路機能を図るうえで工事再開できないか。

答 次年度（令和2年）に測量設計を実施し、事業再開する。

○公共施設等整備検討委員会の動向

問 定例会にて再三回答している委員会の開催はどうなっているのか。

答 年内に基本構想の諮問を行い、年度内に副町長を本部長とする公共施設等整備検討委員会で検討を行うよう指示したい。

問 コンパクトなまちづくりとは。

答 コンパクトで経費を縮減できるよう検討する。

問 庁舎アスベストについて。

答 予算が膨らむので庁舎を建て替える。

▲工事が中断されている町道二葉村移線

令和2年度当初予算について

まつもと　しげはる
松元　茂春議員

○重点施策

問 どの事業を最優先と位置づけて予算編成するか。

答 重点施策的に大きく3つを掲げている。
①町民誰もが住み続けながら、豊かさと幸せを実感できる町づくりを目指す。
②老朽化施設の更新等の推進。
③行財政改革の取り組みと、健全財政の確立。

○町中央運動公園

問 駐車場の一角に水洗トイレの設置を。

答 今後、必要性を充分検証した上で、判断していく。

問 駐車場のフェンス破損補修は。

答 財源等を勘案し、できる限り対応する。

問 駐車場の区画線が消えているが。

答 財源等を勘案しながら対応をしたい。

問 照明用鉄塔のサビが見受けられるが対策は。

答 財政状況を勘案し対応する。

○観光行政

問 渓流釣り場から清流ランドまでの遊歩道を整備する計画は。

答 財政状況等を勘案しながら検討する。

県道400号「高千穂峰狭野線」拡幅について

福澤（ふくざわ） 卓志（たくじ）議員

問 県道高千穂峰狭野線の全線拡幅を、県に要望する考えは。

答 毎年県に要望しており、今後も続けていく。

○防火水槽

問 小学校プール採水口の延長が必要だと考えるが。

答 現在そのような考えはない。

○地域猫

問 野良猫などの被害者救済に、地域猫対策が有効だと考えるが。

答 相談いただければ可能な限りの対応を行う。また、地域猫啓発を実施していく。対策を講じる団体からの相談がある場合、協力できる内容であれば、活動支援などを検討していく。

○役場組織体制

問 懲戒に関する例規等の見直しが必要だと考えるが。

答 基準に応じて対応をしている。例規に掲載するかについては検討していく。

問 運転免許証の所持について確認が必要ではないか。

答 運転免許証確認は行っていないが、実施に向けた取り組みを行っていく。

問 職員の不祥事による町長・副町長の減給について。

答 再発防止に努めると共に、監督者としての責任を取った。

問 非常勤職員の給与状況及び人数算出方法は。

答 現時点で約110名募集しており、費用は1億8,930万円（給与1億6,170万円、通勤手当480万円、期末手当2,280万円）。各課が現況調査算出により募集人数を決めている。

問 残業時間とその費用は。

答 平成30年の時間外労働は13,223時間、約3,162万円支払われている。

○町政座談会

問 町民のために町政座談会の開催の考えは。

答 年度内（3月まで）に実施し、テーマを元に町民の意見を伺う考えである。

先進地に学ぶ　委員会行政調査

総務経済常任委員会

調査日…令和元年11月6日～8日

◎調　査　地・・・奈良県下市町（しもいちちょう）　人口　５，３１０人

（１）調査事項

①「らくらく農法」で奈良女子大学が地域での話し合い（集落点検）を実施、支援事業としては、大豆を植え、味噌に加工して地域の直売所でふるまう取組を実施することで年をとっても農業を続けられることや、農村コミュニティの衰退を防ぐことを目的とした「らくらく栽培」「電動運搬車」「集落点検」「からだ点検」の4つの柱が設けられていた。

②町営テレビで情報共有　下市テレビは町役場で制作から放送まで手がける公営テレビ局。加入率が９８％。

※考　　察・・・全体的に急峻な地形が多く厳しい環境の中、生産意欲の衰退や樹園地や森林の管理放棄また過疎化や高齢化が進むなど、問題点に対し農山村を守り、地域コミュニティの維持を目指す取り組みがなされていた。

◎調　査　地・・・奈良県曽爾村（そにむら）　人口　１，３３９人

（２）調査事項

①地域イノベーション創生総合戦略の取組について

独創的発想による事業の展開・施設の有効利用と雇用の促進や村民と都市住民の交流促進、地域資源を活かした特産品開発など次世代に残して行く為の取組を実施すべく曽爾村観光振興公社が設立した。

②滞在型貸市民農園クラインガルテンについて

都市住民との交流の場としてラウベ（小屋）月貸農園では、開業以来満室で売上金額は、年間１，５５０万円を売り上げていた。

③うるし文化の復興の取組

うるしの植樹活動を始めた。漆塗りの専門家を地域おこし協力隊員として採用し、村の特産品となる漆器づくりに取り組んでいた。

④農事組合法人ゆめの里かずら

湧水で育った良質なお米で地域資源に着目し、米の焼酎を製造販売している。

※考　　察・・・都市からの立地条件が恵まれており、年間２６万人が来客することで観光客で賑わっていた。地域イノベーション総合戦略の効果があり地域意気込みが感じられた。

◎調　査　地・・・三重県玉城町（たまきちょう）　人口　１５，１９６人

（３）調査事項

①玉城町オンデマンド方式による「元気バス」地域福祉の取組について

・３台の運行に係る予算は２，１００万円で玉城町が負担している。

利用者は、年間２５，０００人で運賃は無料。バス登録者は、１，７１８人で６５歳以上が７割を占めている。残り３割は、小学生の学習塾通いや知的障害者の作業所通い等に利用されている。

・バスの利用方法は、運行管理を行う社協のオペレーターによる電話又はインターフェイスを（銀行、郵便局、スーパー、病院、福祉施設、官公庁など）４４ヶ所に設置し、銀行のＡＴＭの感覚で簡単に予約できる。

・社会福祉的な公共交通の展開

高齢者の外出支援策としての役割は大きく、移動を保障するという観点から、高齢期の生活（買い物・通院等）を充実させている。

※考　　察・・・本町でも高齢者の割合が４割を超え、事故防止のために免許証返納者が増える傾向にある。車が無いと生活ができないという観点から足の確保が急務である。

先進地に学ぶ　委員会行政調査

文教厚生常任委員会　調査日…令和元年11月18日～19日・22日

◎調　査　地・・・香川県　綾川町（あやがわちょう）　人口　２４，１５２人

（１）調査事項

①綾川町国民健康保険陶（すえ）病院の経営について

・院長は、在宅医療に力を入れており、現在常勤医師は実質５名体制である。
・自治医大から義務内で必ず１名はきてもらっている。
・健診は内視鏡を５００円で行っており１，７００～１，８００名が受診。
・リハビリは、点数が少ないものの通所リハ施設はほぼ満員状態である。
・血液浄化センター（透析）は、３床から現在は１５床まで増床。
・病床は６３床で３５床が一般病床（うち１０床が地域包括病床）、２８床は療養型であり、看護形態は１０：１である。
・外来は、患者が比較的少ない水曜午後を休診とし、土曜の午前中に診察を行っている。

※考　　察・・・院長として全責任を持って病院経営や医師の確保を行うだけでなく、スタッフのケアや女性医師の勤務優遇、研修医の積極的な受入などにも尽力されておられた。足元を見つめた自治体病院のあるべき姿がしっかりと投影されていた。

◎調　査　地・・・高知県　土佐町（とさちょう）　人口　３，９３６人

（２）調査事項

①ＩＣＴ遠隔教育システムの取組について

平成２８年度に土佐町とＮＴＴが包括連携協定を締結していることから平成３０年度に国の事業を活用し、実証研究事業として実施していた。

・機器導入等の環境整備は、基本的には単独経費。
・導入後の学力推移等の検証、把握は現時点ではできていない。
・ＩＣＴ支援員による機器を使った授業の学習・研修により授業がしやすかった。
・国がＩＣＴ推進をしていること、町長がまちづくりは人づくりという教育環境整備に理解がある。

②小中一貫教育の取組について

土佐町小中学校は、平成２１年度から同一敷地内同一建物に配置された、児童１６１名、生徒７０名の小中一貫校である。

土佐町小中学校は、土佐町学校応援団が組織され、現在１８８名が登録されている。見守り活動や、放課後子供教室、環境整備に取り組む。予算は報償費で９００万円（国・県・町　1／3）。

※考　　察・・・町内５校あった小学校が全て統廃合されてできた学校である。ＩＣＴ教育の推進にあたり、１人に一台のパソコンが行き渡るように年次計画で購入を進め、機器を利活用した授業を展開できるようにソフト面、ハード面での取組が進められていた。応援団推進本部も設置され、課外活動の支援整備が展開され子供たちの成長を見守る体制が充実していた。

◎調　査　地・・・佐賀県　太良町（たらちょう）　人口　８，８２８人

（３）調査事項

①町立太良病院の経営について

訪問介護系事業を同一施設内に併設、６０床常勤医師７名で内科・循環器内科・外科・整形外科・小児科の５科の他、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科がある。常勤医師それぞれ月２０日当直を担当。経営は公営企業法全部適要（全適）。

・医師・看護師のコミュニケーションがしっかりとれている。
・平成２１年度まで赤字が続き２２年度に現院長（小林市出身）と事務長が就任。
・事務長は民間の医療関係者で議会の意向で採用された。
・毎週水曜８時から、全体回診を７年前から実施。
・院長は、午前外来、午後手術と非常に精力的。
・ＴＣネットワーク（太良町地域包括ケアシステム研究会）は、様々な機関で構成されている。
・電子カルテの導入は平成２７年８月。初期費用は１億円ほどであるが外部との連携の時は非常に役立つ。

※考　　察・・・スタッフの働く意味と意義を感じる仕掛けとして、病院全体の平均在院日数や入院利用率、新規入院患者数、外来収入、入院収入などの１０項目に関して評価した上で、点数化し、その成績に応じて期末手当に充当するといった取組などは参考になった。

令和元年度　第1回

議会報告会

10月11日～10月21日　11会場で開催しました。

高原町議会では、去る１０月１１日（金）から１０月２１日（月）まで６日間にわたって町内の１１会場で議会報告会を開催しました。大変お忙しい時期の開催でありましたが、多くの皆様に参加していただきありがとうございました。全体で１４８名（昨年は１５８名）の参加がありました。各会場では、町政に関する様々なご意見や提言、要望等多く出されました。皆様からいただきましたご意見や提言等につきましては、今後、議会のなかで生かして参りたいと思います。

議会報告会日程

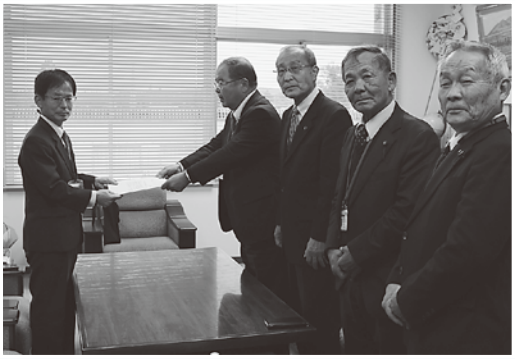
期　日	場　所	対象地区	参加者（人）
10月11日（金）	上後川内地区多目的活動施設	上後川内・川平	１８人
	並木児童館	並木・常盤台	１６人
10月12日（土）	上広原多目的活動施設	上・西広原	６人
	鹿児山農業構造改善センター	出口・鹿児山	５人
10月16日（水）	中平公民館	中平・湯之元・祓川	８人
	下広原構造改善センター	下広原	９人
10月17日（木）	南狭野活性化センター	北・南狭野	８人
	下後川内多目的集会施設	下後川内	１６人
10月19日（土）	ほほえみ館中研修室	下麓・蒲牟田及びこれまで参加できなかった方	１１人
10月21日（月）	ほほえみ館中研修室	上麓	３２人
	小塚活性化センター	花堂・小塚	１９人
		合　計	１４８人

多くのご意見ありがとうございました。

議会報告会で出された
町への要望事項

町議会では、今回の議会報告会で出されました町の施策等に関する要望事項について、下記のとおり取りまとめ、１２月１９日、議長・副議長及び常任委員長が町長に提出しました。

① 病院について
② 御池のトイレの木の枝の伐採のお願い
③ 御池の荒れた食堂について
④ 皇子原のテニスコートが危険で使えない
⑤ 視察研修で来庁された方に対しての食事や宿泊の案内の徹底
⑥ 祭りや地元の東雲太鼓の応援をしてほしい
⑦ 道路の白線がほとんど消えているので危ない
⑧ 街灯に木々が生い茂っているので、何とかしてほしい
⑨ 町道、農道脇のパーキングの開放をしてほしい
⑩ 蒲牟田の道路舗装を早く進めてほしい
⑪ 個人所有の枝木伐採について
⑫ 災害時の農道等の整備を町民にもさせてほしい
⑬ 交付税が減っていく中、財源をどのように賄うのか
⑭ 水資源の活用について（水力発電）
⑮ 予算等に関する、外部の評価システムを作ってほしい
⑯ 少子高齢化の対応について
⑰ 雇用の場を確保してほしい
⑱ 公営住宅の所得制限の拡大
⑲ ふるさと納税について
⑳ 畑かん事業について
㉑ 中山間交付金の継続の要望
㉒ 新規就農と園芸農家の後継者育成について
㉓ 教育環境の整備について
㉔ 学校の統廃合の進め方について
㉕ 役場庁舎の建て替えについて
㉖ 景観条例の周知について
㉗ 防災について
㉘ 職員の地区担当制について
㉙ 健康条例＝意識を高める指導をしてほしい
㉚ 鳥獣対策について
㉛ 軽トラ市について
㉜ 商店街について
㉝ まちづくりについて
㉞ 皇子原・御池の観光について
㉟ 農地について
㊱ 公共交通について
㊲ 上麓・下麓区公民館の建設のお願い



▲要望事項を町長へ

高原町を見つめる　委員会所管事務調査

総務経済常任委員会

◎調査期日・・・令和元年１１月１日（金）

◎調査事項・・・高原町の集落営農組合の現状について

（１）各営農組合の主な取組状況について

４組合は法人化され、利用権設定を活用した農地の賃貸による耕種作物の栽培や耕作放棄地の解消、また受託作業を実施していた。狭野、広原、上後川内・川平営農組合については、今後法人化に向けて検討中である。

▲高原町の集落営農組合現地調査

（２）農地面積及び農地状況等について

１０組合の総面積６０７．３ｈａ、農地パトロール（利用状況）の実施。

（３）オペレーターの確保について

全体で１０８名が登録、若い担い手不足。

文教厚生常任委員会

◎調査期日・・・令和元年９月２４日（火）

◎調査事項・・・町内各小中学校ＰＴＡ代表者との意見交換について

（１）小中一貫教育、統廃合について

Ｐ　１０年ほど前の説明では、建物や場所を一か所にするという説明であったのか、授業内容まで背伸びするという内容でもあった。

（２）学校の行事や同一敷地内ではどういった教育環境なのか

Ｐ　先生・子どもたちが一体となってやっているので素晴らしい。

Ｐ　子どものことを考えると、少人数でやっていくとなるとどうかなと考える。

（３）広原、狭野では複式の学年がある。小学校区、地区には学校は必要だと感じるが

Ｐ　児童生徒がいなくなり、小中学校がつぶれるくらいまで存続させたほうが、地域のためになるし、地域の方も安心する。

Ｐ　授業の底上げではなく、学校生活（生活習慣）の底上げが重要となる。

（４）３学期制について

Ｐ　１学期制ができないか。

Ｐ　２学期制はメリハリがない、始業式や終業式などがあってこそ身が入る。３学期制に戻してほしい。

▲ＰＴＡ代表者との意見交換

※議会への提言・疑問・質問・議会だよりの感想等、ご自由にお書きください。

第10回 宮崎県市町村対抗駅伝競走大会（町村の部）

第4位

▲第１２区　区間賞の走りを見せた九嶋恵舜選手

▲第5区 田中選手から
第6区 田原選手へタスキリレー

区　間	走　者	タイム
第１区	大山　耀臣（小学生男子）	6'07"
第２区	九嶋　萌恵（中学生女子）	8'22"
第３区	南　耀斗（中学生男子）	10'28"
第４区	志村　妃叶李（小学生女子）	4'38"
第５区	田中　博幸（５０歳以上）	11'53"
第６区	田原　光輝（中学生男子）	12'14"
第７区	福留　大樹（一　般）	17'48"
第８区	都甲　尊愛（高校生･40歳以上）	15'00"
第９区	西水流　千波（小学生女子）	5'58"
第１０区	大迫　涼司（一　般）	20'00"
第１１区	林　亮佑（小学生男子）	5'49"
第１２区	★九嶋　恵舜（高　校　生）	15'46"
１２区間　39.2㎞	２時間１４分０３秒	

編集後記

◇令和2年も早2月となり改めて月日の経つのを早く感じています。近年全国的に地震台風等による災害が多く発生するようになり、また新燃岳の噴火も危惧されています。今年こそは災害や事故のない年になることを願う所です。◇令和元年度初めての議会報告会を開催いたしました。参加された皆さん、ありがとうございました。皆様方から貴重なご意見や要望などいただきました。今後も意見交換の貴重な場として、充実した議会報告会にしたいと思います。ご協力とご参加をよろしくお願いします。◇高原町の問題として病院問題など多々ありますが、特に人口減少の問題は大きな課題であり、現在ピーク時の約半分の人口になろうとしています。今、広原地区小学校付近に定住者対策の一環で、賃貸住宅全8棟の予定地が造成され、令和元年度に2棟の住宅が建設されます。また、令和2年度に2棟建設予定となっており、今後少しでも人口減少の抑制に繋がればと思っています。（入佐　廣登）

切り取り線

郵便はがき

料金受取人払郵便

都城郵便局
承　認
574

差出有効期間
令和３年９月
３０日まで
（切手不要）

8 8 9 - 4 4 9 0

（受取人）
高原町大字西麓８９９番地

高原町役場　議会事務局
議会だより編集委員会　行

ふりがな
ご氏名

※匿名を希望される場合はご記入ください。

（〒　　－　　）
ご住所

お電話

■発行日／令和2年2月1日 ■発行／高原町議会 ■編集／議会だより編集委員会
〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地 ☎(0984)42-5-138